



第63号

発行日
令和5年3月31日
発行
栃農高同窓会事務局
栃木県立栃木農業高等学校
同窓会

ご挨拶



同窓会会長

横尾 武男

同窓会機関誌「土」の発刊にあたり一言ご挨拶申し上げます。この一年はロシアのウクライナ侵攻によって世界中が大きな影響を受けました。農産物だけでなく様々な生活用品など海外から輸入されるものやエネルギー価格への影響が大きく、新型コロナウイルス感染症の対策をする生活から抜け出そうとする中にさらに打撃を受けました。そのような情勢下ですが、県内に目を向けるといちご一会とちぎ国体・障害者スポーツ大会が十月に開催され、大きな盛り上がりを見せました。本校からは植物科学科が装飾草花の提供、食品科学科ではおもてなしの焼き菓子、アなど多岐にわたり大会開催にあたって活躍したと聞いています。

さて、母校の教育活動はほぼコロナ禍前の行事を実施できるようになり、三年ぶりにインターンシップが実施できました。

各学科の特色を生かした業種でのインターンシップで学んだことでより深い学びとすることができたようです。日常的な学習や行事が例年のようになるとともにその学習成果をもとに農業クラブの大会を含め、多くの対外的な大会やコンクール等で優秀な結果を収める一年となりました。

今年度の農業クラブ各種発表大会ではプロジェクト発表で二分野が最優秀賞となりました。それぞれ農業環境部島田桃花さん（植物科学科）他四名が分野一類で、同部中村寿奈さん（食品科学科）他七名が分野三類で関東大会へ進み、優秀賞を受賞しました。また、平板測量競技会でも上岡君、戸邊君、平賀君、福田君の四名（環境デザイン科）が最優秀賞を受賞し全国大会へ出場、農業鑑定競技会造園コースで小沼君（環境デザイン科）が二年連続優秀賞。動物科学科では県農業クラブ家畜審査競技会で島田さん（動物科学科）が最優秀賞、全国和牛能力共進会和牛審査競技会で本県代表として出場し、同じく本校のとのみ号が本県代表として出場しました。和牛甲子園では取組評価部門優良賞を受賞しました。さらに三月には農業環境部がゆずの成分をテーマに行った高校生の学会発表（日本植物生理学会）で特別賞を受賞しました。

このような結果は「未来を創る高校生地域連携・協働推進事業」の最終年度となり、活動を通して生徒が主体的に学び、取り組んできた成果が主体的に考えます。栃木市内の小中学校へ食材を提供している栃農給食デーでは、本校の農作物生産という学びが食育という形で地域へ還元する活動はその象徴とも言え、後輩の活動する姿を頼もしく感じているところです。以上のような実績は唯一の単独農業高校が今後にもさらに活躍していくであろうと感じることができ、これまでの輝かしい歴史と伝統の先により地域社会と関わりながら、更なる発展と在校生の活躍する姿を想像できることは大変嬉しいものです。

終わりに、母校の益々の発展と会員の皆様のご健勝・ご多幸をご祈念申し上げます。上げ発刊の挨拶といたします。



ご挨拶



校長

小林 政至

同窓会会員の皆様方には、日頃から本校の教育活動にご理解ご協力をいただいておりますことに、衷心より御礼申し上げます。私、本年度令和四年度より学校長を拝命しました小林政至と申します。初任から二十一年間本校でお世話になって以来十四年ぶりに戻ることになりました。今後ともよろしくお願い申し上げます。

本年度は、引き続きコロナ禍ではありましたが、できる限りの行事を、感染対策しながら実施するという基本姿勢の下で行いました。その結果本年度の生徒の活躍ですが、学校農業クラブ活動では、関東大会にプロジェクト発表で二部門出場、平板測量競技会では県大会の予選を通過し、北陸地区で行われた全国大会出場しました。また、家畜審査競技会県大会では最優秀賞を獲得、五年に一度行われている全国和牛共進会県予選では雌牛「とちのみ号」が最優秀賞に選ばれ、鹿児島県で行われた全国和牛共進会に初出場しました。さらに、次年度の熊本大会に向けた農業情報処理競技会でも、最優秀賞に入賞するなど、例年以上の生徒の活躍が見られました。その他では、ダルメイン世界マーマードアワード&

フェスティバル日本大会プロの部銅賞、とちぎグリーンフェスタガーデニングコンテストコンテナガーデンの部銅賞など様々なコンテストに応募し入賞しております。そして部活動では、柔道部が新人大会団体戦（三人制）で優勝し着実に力をつけているのを垣間見ることができました。手打ちそば部では五人が初段に認定され、農業環境部が全国高校生農業毎日アクション対象奨励賞に入賞しました。加えて栃木市給食センターと連携した栃農給食デーの実践では、その活動がとちぎ地産地消費大賞優秀賞に選ばれました。その活動は、和牛甲子園でも評価され、プレゼンの部で優良賞を獲得しました。これらの本校生の活躍で、栃農生の底力を校内外に示すことができたのではないかと自負しております。

さて、話は変わりますが、現在の農業情勢は大きな変革の渦中にあるといえます。就農者が高齢化し、それに伴い離農する農家が増え、土地の売買や賃貸がこれまで以上に活性化し、大規模経営化や新規就農者の参入が顕著になってきております。また、中山間地域や河川流域近くではイノシシをはじめとする獣害なども増加傾向にあり、これまで地域で支えていた里山や河川の維持管理が難しくなっており、継続した課題となってくると考えられます。また、AやGなどSociety5.0を標榜したスマート農業化が進んできております。その一方で、世界に目を向けますと、異常気象や紛争などによる作物供給の乱れ、安定した食糧確保も国家レベルでの課題となっています。このような情勢下で、本校は県内唯一の、

農業単独の専門高校として、地域連携活動をはじめとする地域に密着した活動を行っております。これらの活動によって生徒の農業への関心度は、以前より高まっていると感じております。日頃の生徒の様子から、自信を持って農業に取り組んでいる姿を様々な場面で見ることもできます。そしてその成果は、進路にも現れていると考えております。今年度の三年生の主な進路としては、大学や専門学校でさらに高度な専門性を身につけようとする者、将来は家業を継いで農業経営者になりたいがそのステップとして農業大学校に進学する者、家は農家ではないが雇用就農して農業に携わる者、農業関連産業に就職する者、公務員として土木関連の仕事に就く者などで、以前よりまして農業関連に進路先を決める生徒がたくさん輩出できております。一方で、農業関連ではないところに就職・進学する者もおりますが、この三年間で学んだ農業関係の学びは、日本農業のよき理解者として必ずや将来役立つと確信しております。

結びに、本校では農業という産業を幅広い角度から実践を通して学び、自信と誇りを持って地域で活躍できる人材の育成を目標に、全職員をあげて取り組んでいく所存でありますので、今後ともご支援を賜りますようお願いいたします。

栃農高同窓会総会報告

令和四年度栃農高同窓会が令和四年七月二十三日（土）にホテルサンルート栃木において行われました。役員、各支部長、評議員（各卒業代表者）にて三年ぶりに市内ホテルでの実施する形となりました。しかしながら、コロナウィルス感染症予防の対策を講じながらの実施となりました。

横尾武男会長（昭和四十五年農卒）からは、コロナ禍でありながらも、学校や社会が本来の姿に戻りつつあると述べるとともに、「母校の新四学科がそれぞれの特色を持って活躍している姿を見て嬉しい。我々同窓会も一丸となって学校を応援していきたい」と心強い言葉をいただきました。

総会の議事では、令和三年度事業報告、決算報告（監査報告）、令和四年度事業計画案、予算案について審議していただきました。また、同窓会会則等の改正について役員の定数や慶弔規定などの審議もしていただきました。役員改選も行い一名の退任と二名の新任が決定しました。

総会終了後には、「おいでよ！ゆずの里 part II」活動エリア拡大中！！のテーマのもと農業環境部（食品科学班）の生徒による生徒活動発表が行われました。また、会長より農業クラブ関東大会出場の激励金の贈呈がありました。

～総会次第～

- 1 開会のことば
- 2 会長挨拶
- 3 学校長挨拶
- 4 議題
 - (1)同窓会会則等の改正について
 - (2)令和三年度事業報告
 - (3)令和三年度決算報告(監査報告)
 - (4)令和四年度事業計画案
 - (5)令和四年度予算案
 - (6)役員改選について
- 5 閉会のことば



生徒活動発表の様子

令和4年度 同窓会入会式

新入会員 141名！！



令和四年度 新入会員代表
落合 侑志

同窓会入会にあたり一言ご挨拶申し上げます。同窓会入会式にて、私たち一四一名の入会を認めていただきありがとうございます。長い歴史を持つ栃木農業高校の同窓生になれることを嬉しく思っています。在学中は、先生方をはじめたくさんの方に支えられて高校生活を送れたと思います。特に、この三年間はコロナウィルス感染症により行事等の制限があり我慢の三年間でした。その中でも実施された各部活や農業クラブでの関東大会や全国大会出場の際、同窓生からの応援や激励金などをいただきました。「力」となりましたことを心より感謝しています。これからの新生活の中でも、校訓である「質実剛健」「進取自治」を心に刻み、活躍している同窓生の先輩方を目標に、学校生活や今まで活動してきたことを糧にそれぞれが描いた夢に向かって精進していきたいと思えます。一四一名がそれぞれ違う道を歩むことになりましたが、栃木農業高校の同窓生として誇りを持って、社会、特に地元や母校に貢献できる人になれるよう頑張っていきますので、先輩方にはご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

栃木農業高校ならびに同窓会の益々のご発展を祈念して、挨拶の言葉とさせていただきます。

栄光の先輩方

渡邊 秀男 様 (昭四十八年農業科卒)

瑞宝単光章 (消防功労) 受章

山名 規之 様 (昭四十六年農業科卒)

瑞宝双光章 (消防功労) 受章

坂田 昇一 様 (昭四十七年園芸科卒)

壬生町議会議員選挙 当選

鈴木 理夫 様 (昭四十四年農業科卒)

壬生町議会議員選挙 当選

針谷 育造 様 (昭三十九年農業科卒)

栃木市議会議員選挙 当選

関口 孫一郎 様 (昭四十七年農業科卒)

栃木市議会議員選挙 当選

佐山 正之 様 (平三年 園芸科卒)

剣道八段(最高段位) 合格

本校生徒の活躍

第三回全国高校生模擬企業グランプリ リアビズに参加して

私たち農業環境部地域デザイン班は、栃木県の伝統工芸品である「座敷簀」の伝承を目的として、四年間簀の原料であるホウキモロコシの栽培研究や伝統工芸品の啓発活動に地域の方と共に取り組んできました。

昨年七月、第三回全国高校生模擬企業グランプリリアビズの一次選考を通過し、十一月か十チームによるオンライン販売を十名で実施しました。リアビズとは、商品開発・販売・財務諸表・決算書という実際の株式会社を想定した実践型プログラムです。二月、東京で活動成果を発表してきました。成果発表では、どの学校も完成度が高く圧倒させそうになりましたが、無事活動内容を自信をもって発表することができました。銅賞という結果になりましたが、現地で他校の活動内容やプレゼン方法等を見ることができ今後の活動に役立てていきたいと思えます。

このリアビズの活動で様々な出来事がありました。一つ目は、原材料の不作という想定外のトラブルが発生しました。昨年度と同等の収穫量を想定していましたが、天候や土づくりに苦勞し大きく減収してしまいました。何とか地域の方々に協力していただき無事販売することができました。二つ目は、社内での意見の

対立です。パッケージの材質やホームページ作成等、対話が足りず衝突してしまったこともありました。しかし、相手の立場に立つてとことん対話することで和解することができました。

今回の経験で、ビジネスすることの難しさや楽しさ、人との関わり大切さを身をもって学ぶことができました。最後に、今後はより本格的なビジネスを行うとともに、マーケティングやプロモーションをに注力し、より多くの人々に私たちの活動を知ってもらえるよう日々取り組んできたいと思っています。

実際に販売した簀



発表の様子

